



SBSビジネスレポート

2018年12月期 期末株主通信

2018年1月1日～2018年12月31日

事業ハイライト

SBSリコーロジスティクス始動!

業績ハイライト

売上高2,000億円突破、
営業利益とも過去最高を更新

INDEX

トピックス	1
社長メッセージ	2
連結業績	2
特集	3
会社概要&株式の状況	6

SBSホールディングス株式会社



5月

自転車ラストワンマイル配送を開始

SBSフレック

SBSフレックは、EC通販の宅配業務を運営している千葉県市川市の市川デリバリーステーションにて、配送業務専用電動アシスト自転車による配送を開始。安全性、効率性、経済性に優れ、環境負荷軽減など様々な効果が期待できる自転車配送を今後も推進していきます。



12月

物流人材に特化した人材紹介サービスを開始

SBSスタッフ

人材サービスを行うSBSスタッフは、約20年にわたり人材派遣および人材紹介に携っています。取引の9割以上を占める物流業界では、SBSグループのみならず、年間800社以上の企業と取引実績があります。これまで培ってきた人材サービスの豊富なノウハウを活かし開発した、物流人材に特化した求人サイト「物流プロ.com」の運営を開始しました。

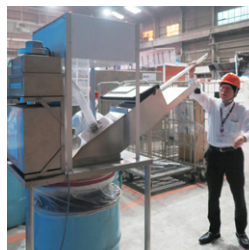


5月

水銀使用製品廃棄物破砕機を導入

SBS即配サポート

SBS即配サポートは、東雲事業所内に水銀使用製品廃棄物の破砕機を設置。蛍光灯等の水銀使用産業廃棄物を破砕処理する際に発生する水銀ガスを吸着除去し、大気中への拡散を防止することで環境に配慮した処理が可能になりました。1本からトン単位の回収処理を行っています。



12月

第11回グローバルKAIZEN大会を開催

SBSリコーロジスティクス

SBSリコーロジスティクスは、2010年から、KAIZENの風土と文化づくりをめざすこと、また、成功事例の速やかな水平展開を目的に「グローバルKAIZEN大会」を開催しています。今回は、1件の改革事例と4件のKAIZEN事例を共有しました。



6月

第1回SBSグループ フォークリフトオペレーターコンテストを開催

SBSグループ

SBSグループは、フォークリフトオペレーターの安全意識の向上と労働災害防止を目的に、「第1回SBSグループ フォークリフトオペレーターコンテスト」を開催。オペレーターに求められる高度な運転技能と、関係法令及び車両構造等に係る専門的な知識を競い合いました。



5月
11月

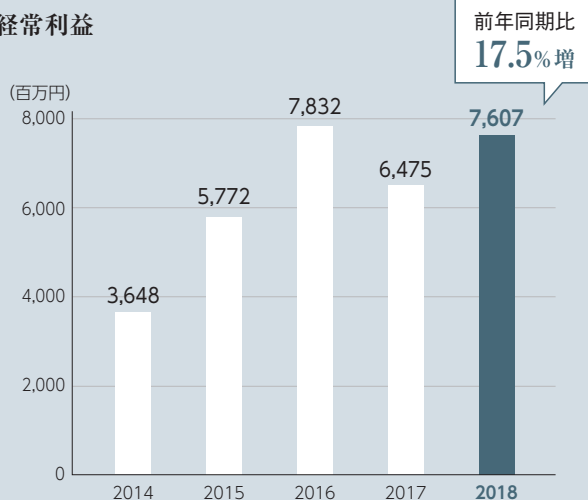
新規物流センターの展開

SBSフレック・SBSロジコム

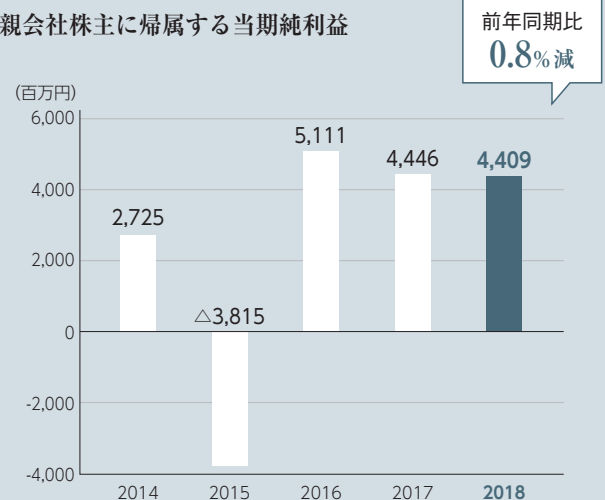
5月、SBSグループ初となる3温度帯に対応した食品専用3PL物流拠点「SBSフレック阿見物流センター」が茨城県で竣工しました。また、11月には、SBSロジコム「(仮称)Dプロジェクト東京城南島Ⅱ」の一棟借上げを決定し地鎮祭に出席しました。稼動予定は、2020年3月です。



経常利益



親会社株主に帰属する当期純利益





大型M&Aと既存物流事業が牽引し、 売上高・営業利益とも過去最高の業績 SBSグループ第2の創業期にふさわしい スタートをきりました。

代表取締役社長 鎌田 正彦

当期の物流業界は、EC市場の拡大や輸配送料金の高騰などを背景に企業の物流機能見直しが活発化し、物流ソリューションに対する需要が高まる一方、人件費、備車費、燃料費などの原価上昇や人手不足の深刻化への対応に迫られる1年となりました。

このような環境のなか、当社グループでは過去最大規模の物流施設開発や3PL事業の新規受注活動、既存事業の効率化に取り組むとともに、大型M&Aや各種業務フローの効率化に着手するなど、次世代SBSグループの礎となる投資を積極的に実行いたしました。

グループ各社では、ホームページ、ウェブ広告、PR誌等を組み合わせたマーケティングと、組織的な提案活動を展開し、新規受注と既存事業の拡大につなげました。また、採算が芳しくない既存事業については、効率化のご提案や料金改定交渉などを行うことでコスト上昇圧力を吸収いたしました。加えて、現場では多様な働き方や働きやすい職場環境づくりに管理者主導で取り組み、離職者の低減に努めました。

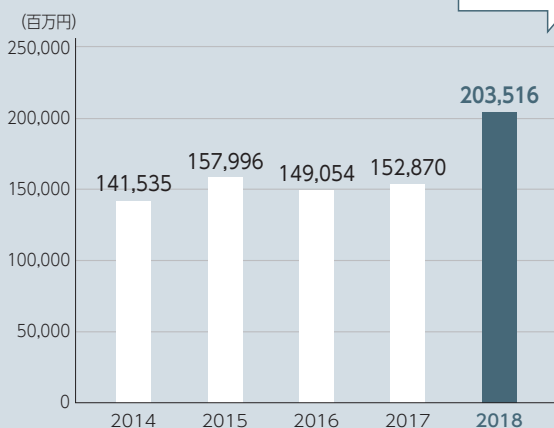
8月に発行済み株式の66.6%を取得したリコーロジスティクス株式会社は、当社グループにおいて過去最大規模の

M&Aとなりました。生産物流やLT(Logistics Technology)などに強みを持つ当社と当社グループ会社は、機能特性において相互補完性が高く、協働を通じて高い相乗効果が生まれることを期待しています。当社グループが強みを持つ物流施設開発では、5月に茨城県に3温度対応の物流施設が竣工、6月には千葉県にて3万5千坪の物流施設用地を取得し造成工事に着手しました。大阪市で建設工事を進めていた物流施設は、本年3月の竣工と同時に、SBSグループ初となる西日本の3PL拠点としてほぼ満床稼働する見込みです。

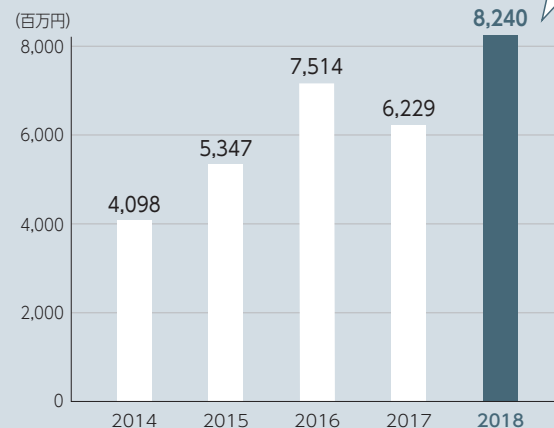
次世代SBSグループの幕開けとなった当期は、大型M&Aと物流事業の成長により創業時からの「夢」であった売上高2,000億円に到達し、営業利益も過去最高益となる82億円に達することができました。今後も“物流を改革する”という志のもとに結集した個性豊かなグループ企業が有機的に繋がり、融合することで、さらなる企業価値の向上に取り組んでまいります。株主の皆様におかれましては、次世代SBSグループにご期待をお寄せいただくと共に、末永くご支援賜りますようお願い申し上げます。

当期の連結業績

売上高



営業利益



SBSリコーロジスティクスとの融合で、飛躍的成長を目指す

精密機器物流のパイオニア

SBSホールディングスは2018年8月1日、株式会社リコーから物流子会社「リコーロジスティクス」の株66.6%を取得しました。また、2019年1月には、国内グループ関連会社6社を含め社名変更を行い、「SBSリコーロジスティクス株式会社」として始動しました。(右表)

SBSリコーロジスティクスは、1964年、大手精密機器メーカーであるリコーグループの物流子会社として発足、国内外でリコーグループの物流業務全般を担う3PL事業を展開しています。また、株式会社大塚商会の「たのめーる」の物流業務全般を受託するなど、リコーグループ外のお客様にも物流サービスを提供しています。

新社名
SBSリコーロジスティクス株式会社
SBS三愛ロジ東日本株式会社
SBS三愛ロジ関東株式会社
SBS三愛ロジ東京株式会社
SBS三愛ロジ中部株式会社
SBS三愛ロジ関西株式会社
SBS三愛ロジ九州株式会社



グループ各社とのシナジー効果で新たな価値を創造

SBSグループには総合物流グループとしての技術とノウハウがあり、SBSリコーロジスティクスにはメーカー系物流で培った素晴らしい技術とノウハウがあり、共に3PL事業に強みを持っています。また、SBSグループとSBSリコーロジスティクスの業務は相互補完性が高く、全国配送ネットワークの強化、機械化・自動化による効率化、サプライチェーンマネジメントへの対応力強化、物流不動産開発における事業モデル拡大、海外事業の拡大などの分野で高いシナジー効果が期待できます。

双方のネットワークや顧客基盤、技術、ノウハウを融合させることで生まれるシナジーが、「全方位の物流機能を有する3PL企業集団」としてのSBSグループに、新たな価値をもたらします。今後はテーマごとにグループを横断した協働プロジェクトを立ち上げ、シナジー効果の具現化に向けた取り組みを進めます。

全方位3PL展開へ 強みの相乗効果×課題の相互補完

<p>SBSリコーロジスティクス</p> <p>強み</p> <ul style="list-style-type: none"> メーカー向け3PL 全国展開・海外展開 BtoB通販向け物流 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> リコーグループ外への拡大 人材・車両確保 	<p>期待されるシナジー効果</p> <ol style="list-style-type: none"> ①全国ネットワークの強化 ②機械化・自動化への対応 ③物流不動産の開発における事業モデルの拡大 ④サプライチェーンマネジメントの強化 ⑤海外事業の拡大 	<p>総合物流 SBSロジコム</p> <p>強み</p> <ul style="list-style-type: none"> 小売り・卸向け3PL 食品等3温度帯3PL 物流施設開発 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 海外展開 関東中心の事業 <p>食品物流</p> <ul style="list-style-type: none"> SBSフレック SBSゼンツウ 即日配送 SBS即配サポート 人材 SBSスタッフ
--	---	---

グループ入りした企業の強みを活かし、さらなる成長へ

SBSグループは、これまでもM&Aを通じてグループ入りした企業の強みを活かし、伸ばすことで物流サービスの拡充に努めてまいりました。SBSリコーロジスティクスも同様に、グループの経営資源を活用することで新たな成長機会を得ることが可能になります。SBSグループは、今後もグループ会社の成長を通じ、お客様のビジネスに最適な物流サービスを提供してまいります。

SBSグループ代表・鎌田(左)とSBSリコーロジスティクス社長・若松(右)



SBSグループの ESG活動

CSRにおける重要テーマを、「環境」「安全」「社会」「統治」の4つに分類し、それぞれの重点項目や推進施策を定め、継続的かつ多角的に取り組んでいます。4つの課題の各々に推進組織（グループ会議）を設け、活動の推進と情報の共有を図っています。また、これらの組織を統括する「CSR推進委員会」は、グループ各社の代表で構成され、グループ横断組織として方針の決定や施策の承認を行うなど、CSR活動の推進軸を担っています。

環境 / Environment



■ 第3次中長期環境計画開始

SBSグループは、環境アクションプラン2017に続くグループ中長期環境計画を策定。私たちはこの計画を「シンシア チャレンジ」と名付けました。

シンシア (sincere) とは「うそ偽りのない、正直な、誠実な」ことを意味します。この言葉どおり、私たちはこの計画に誠実かつ積極的に取り組みます。

SBSグループ中長期環境計画

計画名	シンシア チャレンジ(SINCERE CHALLENGE) 2030
スローガン	“環境にやさしい 緑あふれる社会 私たちは挑戦します!”
重点課題	中期 CO ₂ 排出量の削減(車両・施設の低炭素化) 資源循環の促進(廃棄物の効果的活用と再資源化) 天然資源の保全(コピー用紙・水の使用量削減) 長期 車両排出CO ₂ 削減強化 (次世代自動車導入等計画策定・施行)
行動計画	「環境アクション2020」

安全 / Safty

SBSグループにとって、安全・無事故の実現は最重要課題であり、サービス品質の核をなすものです。ドライバーの安全に対する意識や運転技術の向上、健康管理の支援、車両の安全性の確保といった多角的なアプローチで、事故防止に取り組んでいます。

■ Gマーク認定事業所数

SBSグループのGマーク認定事業所数は**153**、取得率は**86.4%**となっています。(2018年12月13日現在)

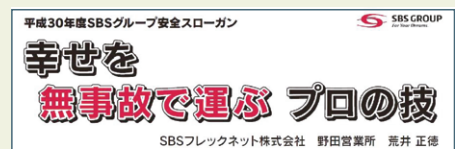
■ ドライバーコンテストの開催

安全知識と運転技術の向上等を目的に、グループ各社でドライバーコンテストを開催、トラック協会主催の大会にも参加しています。



- ・SBSゼンツウ/生活物流部門「第6回ドライバーコンテスト」を開催(4月)
- ・SBSゼンツウ/基幹運輸部門「第6回ドライバーコンテスト」を開催(6月)
- ・第24回長野県トラックドライバーコンテストでSBSフレックネット 橋木が優勝(7月)
- ・第50回全国トラックドライバー・コンテストに出場(10月)
- ・「第3回SBSグループドライバーコンテスト」を開催(11月)
- ・SBSリコーロジスティクス/「第6回ドライバーコンテスト」を開催(11月)

■ 安全スローガンの策定



■ 改善のための取組み

物流品質の向上を目指し、グループ各社で様々なコンクールや発表会等を開催しています。

- ・SBSゼンツウ/生活物流部門「第2回 接客達人コンクール」を開催(7月)
- ・SBSゼンツウ/生活物流部門「第3回 改善事例発表会」を開催(11月)
- ・SBSフレックネット/「第2回 業務改善発表会」を開催(11月)

■ 交通安全運動への参加

SBSグループは、交通事故ゼロを目指し様々な活動を行っています。春と秋の「全国交通安全運動」期間中には、地域の警察署等が実施する合同街頭活動に有志参加し、地域住民の方々に事故防止と交通安全を呼びかけています。同期間中は、全社全事業所で啓発ポスターや垂れ幕を掲示。従業員は「交通安全リボン」を着用し、日頃から交通安全を意識した行動を心掛けています。

社会 / Social

SBSグループは経営理念に則り、社会と共に生きることを事業活動の大原則としています。企業市民として、社会の課題解決に微力ながら貢献すると共に、ステークホルダーの皆様とのコミュニケーションを大切にし、信頼関係の構築に努めています。

■ フードバンク活動を後方支援

SBSグループは、フードバンク活動の基盤である物流の支援を2018年6月から開始しています。



■ 日本レコードセンターの取組み

グループ会社の日本レコードセンターは、地域社会との関わり合いを深めるため、様々な取組みを行っています。

- ・「未病サポーター養成研修」を開催(2月)
- ・「第4回夏休み子ども教室」を開催(8月)
- ・「第5回パワーウォーキング講習会」を開催(11月)



■ 障がい者雇用の取組み

2018年9月にSBSゼンツウが埼玉県より表彰。10月には、優良勤労障がい者として、SBSフレックネットの山崎が大分県から表彰されました。

統治 / Governance

SBSグループは、健全な経営を目指し、コーポレート・ガバナンス(企業統治)の強化を通じて経営の迅速化と効率化を図り、健全性・透明性を確保し続けることで、信頼される企業としてステークホルダーの期待に応えていきます。また、事業環境変化により難度が増すコンプライアンスやリスクマネジメントについても、課題の一つひとつ取り組んでいきます。

■ 災害対応の取組み

SBSグループ各社は、大規模地震等の緊急事態を想定して、グループ各社間の情報伝達や代替拠点の設営等、様々な緊急時対応訓練を実施しています。

- ・SBSグループ/第3回緊急時対応訓練を実施(10月)
- ・SBSリコーロジスティクス/安否確認訓練(定期)
- ・SBSホールディングス/東京都一斉帰宅抑制推進企業認定(12月)

会社概要&株式の状況

会社概要

社名 SBSホールディングス株式会社
 代表取締役 鎌田 正彦
 創立 1987年12月16日
 資本金 39億2,075万円
 売上高 2,035億円(連結) ※2018年12月期
 所在地 〒130-0012 東京都墨田区太平4-1-3
 TEL:03-3829-2222(代表) FAX:03-3829-2822
 事業内容 物流事業、不動産事業、マーケティング事業、人材事業 他

連結子会社
 2019年1月1日 SBSリコロジスティクス(株)
 SBS三愛ロジ東日本(株) SBS三愛ロジ関東(株) SBS三愛ロジ東京(株)
 SBS三愛ロジ中部(株) SBS三愛ロジ関西(株) SBS三愛ロジ九州(株)
 RICOH LOGISTICS CORPORATION RICOH INTERNATIONAL LOGISTICS (H.K.) Ltd.
 理光国際貨運代理(深圳)有限公司

SBSロジコム(株)
 SBSフレイトサービス(株) 日本レコードセンター(株)
 SBSグローバルネットワーク(株) SBSロジコム関東(株)

SBSフレック(株)
 SBSフレックネット(株)

SBSゼンツウ(株)

SBS即配サポート(株)

SBSスタッフ(株)

SBSファイナンス(株)

SBSアセットマネジメント(株)

(株)エルマックス

マーケティングパートナー(株)

SBS Logistics Singapore Pte. Ltd.

役員 (2019年3月26日付)

代表取締役 鎌田 正彦 取締役 岩崎 二郎
 取締役 入山 賢一 取締役 星 秀一
 取締役 泰地 正人 常勤監査役 山下 泰博
 取締役 佐藤 佳嗣 監査役 竹田 正人
 取締役 若松 勝久 監査役 松本 正人
 取締役 関本 哲也

※取締役のうち、岩崎二郎、関本哲也、星秀一の3氏は社外取締役です。
 ※監査役のうち、竹田正人、松本正人の両氏は社外監査役です。

株式の状況

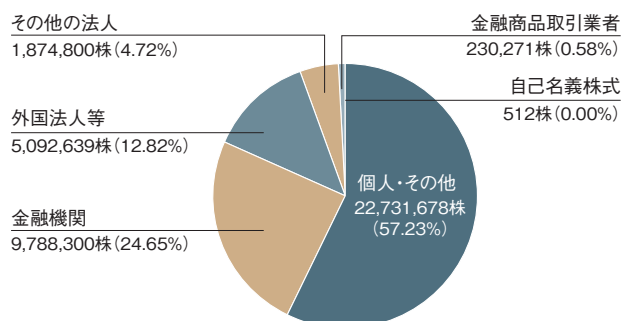
発行可能株式総数 154,705,200株
 発行済株式の総数 39,718,200株 単元未満株 914株含む
 単元株制度の有無 有(100株)
 株主数 2,921名

大株主の状況

株主名	持株数	持株比率(%)
鎌田 正彦	14,888,400	37.48
日本ラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	5,446,900	13.71
SBSホールディングス従業員持株会	1,424,400	3.58
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,238,700	3.11
特定有価証券信託受託者 株式会社SMBC信託銀行	1,200,000	3.02
東武不動産株式会社	954,800	2.40
NORTHERN TRUST CO. (AVFC) RE IEDU UCITS CLIENTS NON LENDING 15 PCT TREATY ACCOUNT	896,700	2.25
大内 純一	875,000	2.20
GOVERNMENT OF NORWAY	814,700	2.05
伊達 寛	740,200	1.86

※発行済株式総数に対する所有株式数の割合は、小数第3位を切り捨てて表示しております。

所有者別株式分布状況 (発行済株式総数:39,718,200株)



株主メモ

■ 事業年度

1月1日～12月31日

■ 期末配当金受領株主確定日

12月31日

■ 定時株主総会

毎年3月開催

■ 株主名簿管理人及び特別口座の口座管理機関

三菱UFJ信託銀行株式会社

■ 同連絡先

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

〒137-8081 東京都府中市日鋼町1-1

TEL. 0120-232-711 (通話料無料)

郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

■ 上場証券取引所

東京証券取引所 市場第一部

■ 公告方法

公告掲載URL <http://www.sbs-group.co.jp/>

※ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときには、日本経済新聞に公告いたします。

ご注意

- 株主様の住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。



〒130-0012 東京都墨田区太平4-1-3 オリナスタワー
 TEL:03-3829-2222(代表) FAX:03-3829-2822